

(仮称) エクレシア南伊豆入所説明会開催

15日、杉並区役所では、全国初となる自治体間連携による特別養護老人ホーム(仮称)エクレシア南伊豆の入所申込説明会が開催され、多くの区民が来場し熱心に耳を傾けていました。(仮称)エクレシア南伊豆は、平成30年3月の開設で、7月24日から入居の申し込みが始まります。

杉並区の特別養護老人ホーム入所待機者は、およそ1,000人にのぼります。また、高齢化が進展する中、こうしたニーズは今後も増大していくことが見込まれています。特別養護老人ホームは区内整備を中心に取り組んでいるところですが、区民の老後の暮らし方の選択肢を広げる取り組みの一つとして、南伊豆町との連携による特別養護老人ホームの開設を目指してきました。この圏域を越えた整備は、これまでにはなかった全国初の試みで、継続的な運営が行われるよう、杉並区からの入居者は出身地の杉並区が責任を持って費用の負担することが確認されています。

(仮称)エクレシア南伊豆は、南伊豆町と杉並区の自治体共通の行政課題である特養入所ニーズへの対応として誕生します。施設は90床の定員で、そのうち50床程度に杉並区民が入居を予定しています。運営は、静岡県下田市の社会福祉法人梓友会(しゅうかい)で、自然豊かな環境の中、木のぬくもりあふれる施設となっています。また、施設利用者と家族の距離を縮める工夫として、テレビ電話や面会者用宿泊施設も用意されます。

15日10時、区役所会議室には、特養入所を希望する方やその家族などおよそ50人が出席し、入所説明会が始まりました。説明は、梓友会のスタッフが担当し、南伊豆町の魅力や施設の概要、さらに家族と利用者のために用意した面会システムなどを紹介。参加者は、熱心にメモを取りながら聞き入っていました。



説明会に参加した70代の女性は、「私は、兄も高齢で施設に入ってしまい頼れる家族がいません。若い時に家族と旅行に行ったことがある南伊豆の施設に入れるなら、ぜひ入所したいと考えています。」と話していました。説明会は、午後にも予定されていて、午前と同様40人ほどが参加の予定です。